

みんな

子どもの未来を
考えよう。



「6人に1人の子どもが貧困」

この衝撃的な数値が取り上げられてから、子どもの貧困について注目されるようになりました。大人の社会でも経済格差が広がる中、貧困に限らず様々な困難に直面している子どもたちが増えています。

ここで出てくる「貧困」とは相対的貧困（注1）のことを指します。その目安となる生活費は保護者1人と子ども1人の世帯で年間177万円未満（厚生労働省の相対的貧困等に関する調査分析結果より）

です。この豊かな日本で貧困にあえぐ子どもたちがいるなんて信じられない！そう思った方も多いでしょう。しかし貧困状態にある家庭は私たちが思うより多いのです。

内閣府の平成27年版子供・若者白書によると、「子供の相対的貧困率は1990年代半ば頃からおおむね上昇傾向にあり、平成24年には16.3%となっている。子供がいる現役世帯の相対的

貧困率は15.1%であり、そのうち、大人が1人の世帯の相対的貧困率が54.6%と、大人が2人以上いる世帯に比べて非常に高い水準となっている」と書かれており、ひとり親家庭の状況は非常に厳しいと言えるようです。

とはいえ貧困をはじめ、様々な困難を抱えている子どもは、誰にも状況を知られないように生活しているのが実

あなたの近くに 困っている子どもがいます

態です。そんな中で日々の食事と学習の支援を求める声が多いようです。食事面の問題としては栄養を十分に取れていないことに加え、遅くまで働く保護者を待ちながら1人で食べる、いわゆる孤食をしていることがあげられます。家族で食卓を囲む機会の少ない子どもたちに、団らん場の提供したい、そして月に数回でも栄養のある食事を少額で食べてほしいと、全国で子ども

食堂の取り組みが始まっています。

学習面では、親の経済的貧困が子どもの学習機会の喪失を生み、低学力、低学歴となって現れ、若者の貧困につながってしまいます。貧困の連鎖を食い止め、子どもたちが自分の将来を期待して生きていくためにも、学習支援は非常に重要なことと言えます。

貧困をはじめ、ネグレクト（育児放棄）、虐待、学校に通わせてもらえないなど、困難な状況にある子どもへの支援が今以上に必要です。あなたの近くに困っている

子どもがいるのです。未来をつくる子どもたちのために、私たちに何ができるのか、何が今求められているのか、四街道での取り組みも紹介しながら考えていきたいと思います。

注1 貧困には相対的貧困と、絶対的貧困があります。今問題となっているのは、相対的貧困。相対的貧困率とは、OECD（経済協力開発機構）の作成基準に基づき算出されたものです。

行政のひとり親家庭等の支援について

1-8の詳細内容、支給条件は家庭支援課庶務給付グループ（電話：043-421-6124）まで、9-10は各窓口までお問い合わせください。

1 児童扶養手当の支給

父または母と生計を共にしていない18歳に達する年度末までの児童を監護している父母、または代わって養育している人に支給

2 ひとり親家庭等医療費等助成

ひとり親家庭の父母と18歳に達する年度末までの児童が保険医療給付を受けた場合、自己負担額の一部を助成

3 JR通勤定期券の割引

児童扶養手当受給世帯の人がJR東日本の通勤定期乗車券購入時、3割引になる制度

4 ひとり親家庭高等職業訓練促進給付金等支給事業

就職の際に有利になる資格の取得のため1年以上の専門学校、大学などに通学するひとり親家庭の父母に支給

5 ひとり親家庭自立支援教育訓練給付金

就業を目的に国指定の教育訓練講座などを受講したひとり親の父母に受講費用の一部を支給

6 ひとり親家庭支援助成金

ひとり親家庭にファミリー・サポート・センター利用の謝礼、資格取得、検定試験の受験費用を助成

7 母子・寡婦・父子福祉資金の貸付（県事業）

ひとり親家庭の父母や寡婦の経済的自立を支援するための県の貸付制度

8 ひとり親家庭児童入学等祝金

ひとり親家庭を対象に小・中学校の入学、および中学校卒業の際に祝金の支給

9 県営住宅入居の優遇措置（県事業）

ひとり親世帯は特別枠世帯として当選確率が高くなるような配慮があります（千葉県住宅供給公社 043-222-9200）

10 就学援助制度

小・中学校に就学させる際に経済的悩みを抱えた家庭に学用品費・給食費などを援助する制度（市教育委員会 043-424-8932）

各種相談窓口

家庭支援課 043-388-8100 子ども虐待・児童相談・DV相談

家庭児童相談室 043-423-0783 子育て・心や体の発達・学校生活・いじめ・虐待など

青少年育成センター 相談専用電話 043-423-0066 いじめ・不登校・不良交友・深夜徘徊など

いじめ相談フリーダイヤル 0120-423-006

注：平成29年4月1日より「家庭支援課」は「子育て支援課」へと名称が変更になります。

様々な支援の形

困難な状況にある子どもたちへ、今私たちにできることは何でしょうか。

「でも何を始めればいいのかわからない」という人に向けて、ここでは市内、市外ですでに始まっている様々な支援の形をご紹介します。

現在、全国各地で広まっている取り組みのひとつが子ども食堂です。子ども食堂とは「子どもが1人でも利用でき、地域の方たちが無料あるいは少額で食事を提供する場所」とされています。自宅、公民館、既存の飲食店など運営の状況も様々なケースがあり、明確な定義はありません。「何か力になりたい」という支援者の掘り起こし、困窮に陥る手前にいる人たちの支援、そして実際に困窮している人たちを専門機関につなげていくという重要な役割も持っています。始めたい人は、地域の居場所なのか、困窮者支援なのか、運営方針についてイメージの共有が大切です。

市内でも子ども食堂のスタートが予定されています。人が集まれば情報が集まり、つながりができます。孤立しがちな困窮者たちの命綱となりえる活動と言えるでしょう。

困難な状況は学習環境にも如実に現れます。低学歴・低学力は、そのあとの負の連鎖を生むことになりかねません。この連鎖を打破するには教育を受け、進学をすることで、職業を選ぶ際に選択肢が限られない状況にすることが大切なのです。

市内では、わろうべの里で子どもたちのための学習支援「ほのぼの学習教室」(四街道中学校地区社会福祉協議会主催)が行われています。この教室は塾に行っていなかったり、勉強の仕方がわからなかったり、ちょっと学習に悩んでいる中学生向けの学習支援です。熱心なボランティアスタッフとともに学ぶ喜びを感じている生徒たちの笑顔があふれています。長くこうした活動を続けていくためにボランティアを募集しています。

四街道市健康こども部家庭支援課でもひとり親家庭の中学生を対象にした学習支援を実施する予定であり、平成29年度スタートを目指して準備中です。

こういった学習支援の他に全国から募った寄付を現金給付ではなく、塾や習い事、体験活動などで使える学校外教育バウチャー(クーポン)として、配布する取り組みをしているチャンス・フォー・チルドレンという団体があります。現在は、東日本大震災で被災した子どもと関西地域の貧困家庭の子どもへの支援が主になりますが、時間的な余裕がなく直接的なボランティアの参加や資源の提供が叶わない人は、こういった

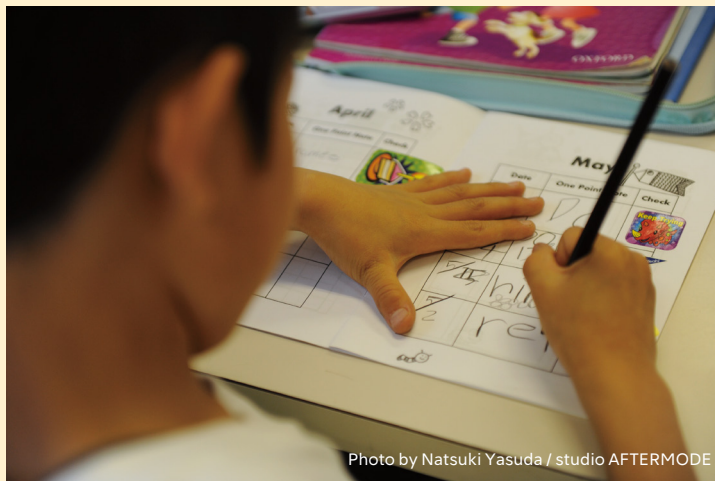


Photo by Natsuki Yasuda / studio AFTERMODE

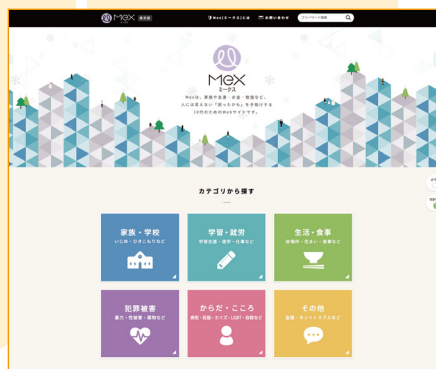
負の連鎖を断つためには進学をし、将来の選択肢を増やしたい

寄付を通じた支援もひとつの選択肢です。

そして、子どもたち自身がインターネットの膨大な情報の中から自分に合った支援サービスを見つけることができる仕組みづくりも始まっています。

東京を拠点に活動するNPO法人3keysは2016年に悩みを抱える10代とその子に合った支援団体を繋げるサイト「Mex(ミークス)」を開設しました。現在は東京版のみですが、今年6月には全国版としてリニューアル予定。直感的でわかりやすいデザインで、今後大きな可能性を感じさせる支援ツールです。行政のサポート、支援団体を知らずに孤立しがちな子どもたちをすくい上げ、繋げる、そういったインターネットを使った活動もこれからは不可欠になってくるでしょう。

困難な状況にある子どもたちを助ける術、形は様々です。それぞれが持つスキル、特性、資源によっても変わってきます。自分にできることがすでにわかっている人は、仲間を募って踏み出してみませんか。そして、そうでない人も、まずは地域の子どもの様子に目を向けてみてください。少しずつ関係を作っていくうちに、困っている子どもが抱えている現状が見えてくるかもしれません。そうした関係作りも、支援の第一歩になるのです。



様々な10代の悩みと支援団体を繋ぐサイトMex(ミークス)

困難な状況にある 子どもたちの支援に対する みんなで地域づくりセンターの これまでの取り組み



四街道には子どもたちが豊かに育つための取り組みがたくさんあります。しかし、先に書いたように現在の子どもたちの置かれている状況を考えると、支援の必要な子どもたちへの取り組みを増やすことが急務です。行政の支援とは別に、できることは何か、地域にある資源を情報交換し、新しい動きへと繋げていくために、センターでは今年度「子ども支援団体交流会」を2回開きました。

この交流会はもともと、子どもの育ちを支援している団体の情報交換会として始まりました。しかし今年度からはより具体的に子どもたちに働きかけるきっかけにしたいと、地域の子どもの支援団体だけではなく、民生委員・児童委員をはじめ、市の職員の方にも出席いただき、様々な立場から子どもの現状や取り組みについて意見交換をしました。

今年度はテーマを「子どもを取り巻く状況と支援～地域に育つ子どもの環境を知り、必要な支援を考えよう～」と題して、健康こども部家庭支援課と、くらしサポートセンター「みらい」の職員の方にも現状をお話しいただきました。

子どもの支援は早急に必要であること、何かしたいと考えている人がいること、何かしたいが何をしてよいかわからない人も多い、という課題がはっきりしました。また参加者同士での新しい交流も生まれています。

センターでは来年度以降も子どもたちの問題を取り上げ、四街道の子どもたちに必要な支援を考え、実際に動き出そうとしている取り組みをサポートしていきたいと考えています。関心のある方はセンターまでご連絡ください。

お知らせ

みんなで地域づくりセンターでは、これから地域で何かしたい人、すでに活動している人をサポートするプログラムや講座を実施しています。



福祉施設紹介・販売フェア 大きなテーブル

四街道市内と近隣の福祉施設が一堂に会し、それぞれの取り組みや施設で作っている商品を紹介しながら販売します。手作りのお菓子やパン、そして布小物などの商品が並びます。普段なかなか目にすることの少ない福祉施設の商品を、この機会にぜひ知ってください。地域の皆さんに愛されることで障害のある人たちの就労や自立につながる体制作りを応援します。みんなで楽しいひと時を過ごし交流する場、大きなテーブルへ、ぜひご来場ください。

日時：平成29年6月16日（金）～17日（土）10:00～14:00

場所：四街道市文化センター 展示ホール／四街道市みんなで地域づくりセンター

販売品：新鮮野菜、平飼いの新鮮卵、生しいたけ、パン、クッキー、

手作り製品（ジャケット、バッグなど）、陶器、雑貨など

今号で紹介した団体について

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン

仙台事務局：宮城県仙台市青葉区本町1-13-24 錦ビル7階

東京事務局：東京都江東区亀戸6-54-5 小川ビル2階

関西事務局：兵庫県西宮市甲風園1-3-12 カミヤビル3階

Tel.：022-265-3461 ※月～金 13:00～19:00（土日祝を除く）

Fax.：022-265-3471

Mail：info@cfc.or.jp

Web：http://www.cfc.or.jp/

NPO法人3keys（スリーキーズ）

所在地：東京都新宿区下落合4-6-27

Web：http://3keys.jp/（オフィシャルサイト）

https://me-x.jp/（Mexミックス）

四街道市みんなで地域づくりセンターについて

四街道市みんなで地域づくりセンター

（四街道市シティセールス推進課分室）

開館日時：火～金 9:00～20:30 / 土 9:00～17:00

休館日：日・月・祝日・年末年始

第1・第4月曜日が祝日の場合、翌日火曜日休館

所在地：四街道市大日396 四街道市文化センター1階

Tel.：043-304-7065

Fax.：043-422-7051

E-mail：info@minnade.org

Web：http://minnade.org/

Facebook：https://facebook.com/yotsukaido.tiikidukuri/